

平成30年度大分県の学力定着状況調査ならびに

平成30年度全国学力学習状況調査の結果と分析について

平成30年 8月28日
由布市教育委員会

本年度、4月24日に実施された「平成30年度大分県の学力定着状況調査」ならびに、4月17日に実施された「平成30年度全国学力学習状況調査」の結果についてお知らせいたします。

1 学力調査結果の分析

(1) 小学校における学力の状況

「平成30年度大分県の学力定着状況調査」〈図1参照〉

小学校では、第5学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○5年生では、算数と理科の活用を除く全ての教科で「目標値^{※注1}」を超えました。

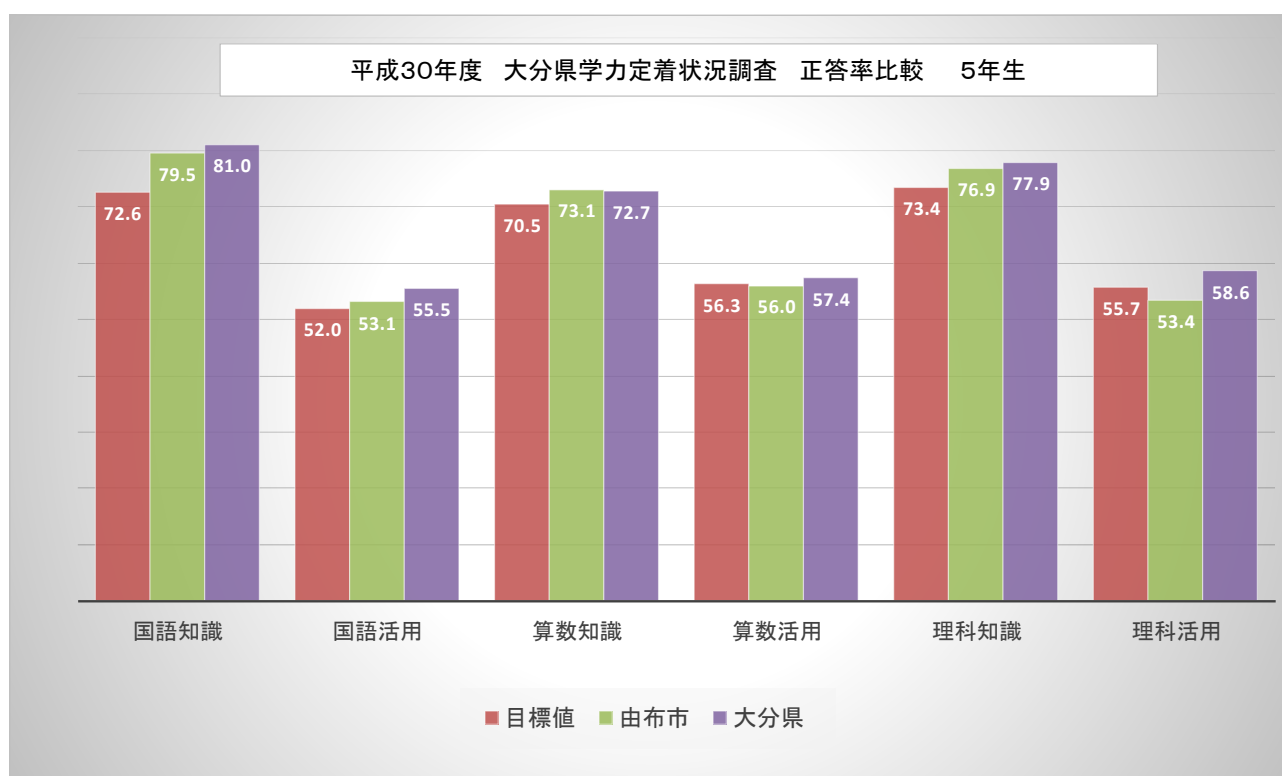
○県の平均値にはもう少しというところなので、引き続き取組を充実させることが必要になります。算数の知識については県の数値も超えています。

活用力の育成が昨年度に引き続き課題になります。

○状況的には、ほぼ昨年、一昨年度と同様の状況です。

※注1 学習指導要領に示された内容について、正答できることを期待した児童生徒の割合。
多くのデータを基に、テスト作成業者が算出したもの。

〈図1〉 教科別正答率「小学校5年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「平成30年度全国学力学習状況調査」＜図2参照＞

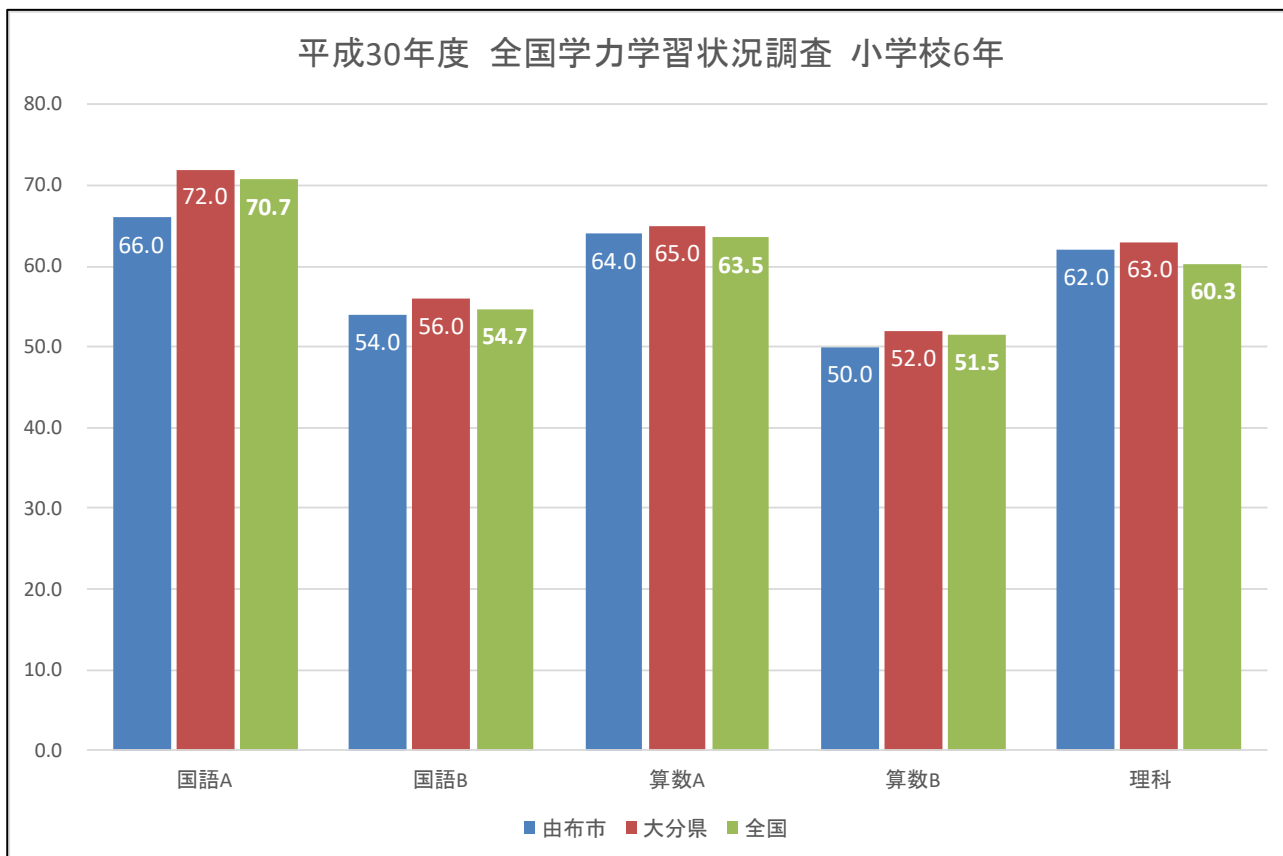
小学校では、第6学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○6年生では、算数Aと理科が全国値を超えました。

国語のAのみ、課題が見られる結果（漢字力）となっています。

○大分県が全国で9位と好成績をあげており、県の成績を上回ることがありませんでしたが、昨年度末に実施した由布市の独自調査からはかなり進歩しています。

＜図2＞ 教科別正答率「小学校6年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「小学校における学力向上計画」

① 小学校低学年から引き続く学力向上

由布市においては、小学校1年生から将来を見据えて、子どもに学習の技能をつけていくことを目指してやってきました。その結果、授業における話し合い活動（協働的な学習）がうまくなされるようになり子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。

一方で、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、算数における計算力（スピード）をつけることについては依然として課題があり、学力調査の当該学年だけに対策をとるのでなく、組織的・計画的な取組を進めているところです。

② 学力調査の結果分析をもとに授業改善を

問題を詳しく見ると、県における分析と同様、由布市においても前年度と同じような問題が解けていないという結果が出ています。

このことは、前述の低学年からつけていく力に加え、学力調査の結果をふまえて授業改善をしていくことの大切さを物語っています。学力向上支援教員や習熟度別授業推進教員、また、指導法工夫改善教員および指導教諭といったが学力向上に特化した教員を核として、今後も組織的に取り組めるようにしていきます。

(2) 中学校における学力の状況

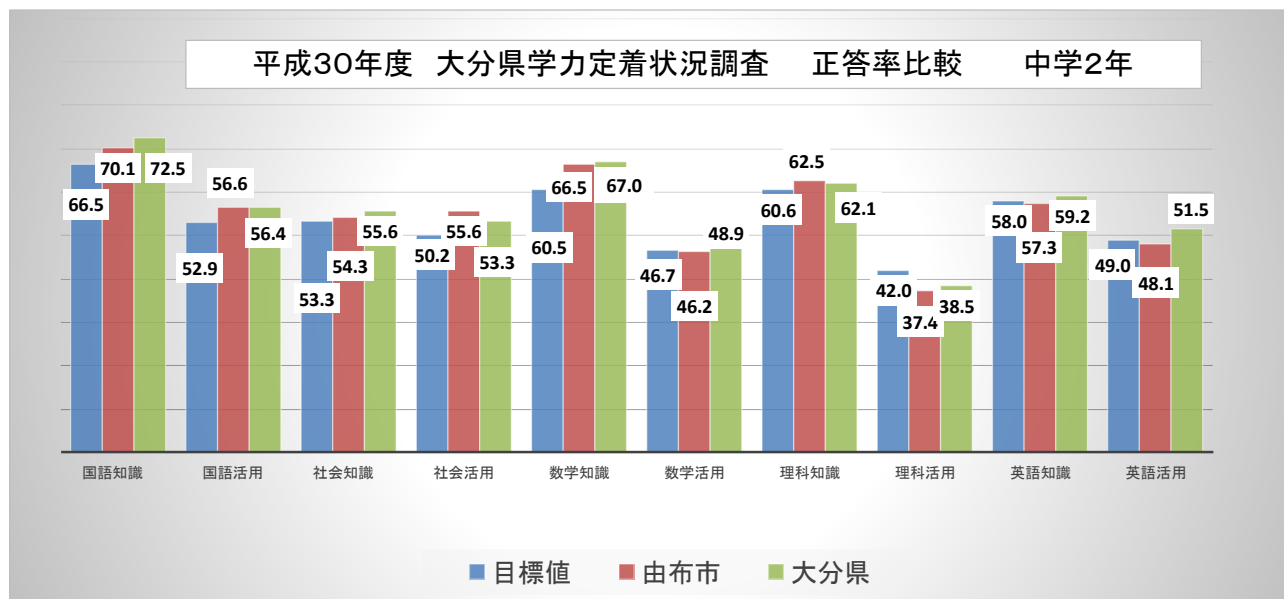
「平成30年度大分県の学力定着状況調査」〈図3参照〉

中学校では、第2学年で国語・数学・理科・英語の調査が実施されました。

○2年生では、数学の活用、理科の活用、英語の知識と活用を除き「目標値^{※注1}」を超えました。

○ほぼ県と同様の結果が出ていますが、活用問題の取組において、さらに取組を進める必要があります。

〈図3〉 教科別正答率「中学校2年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県

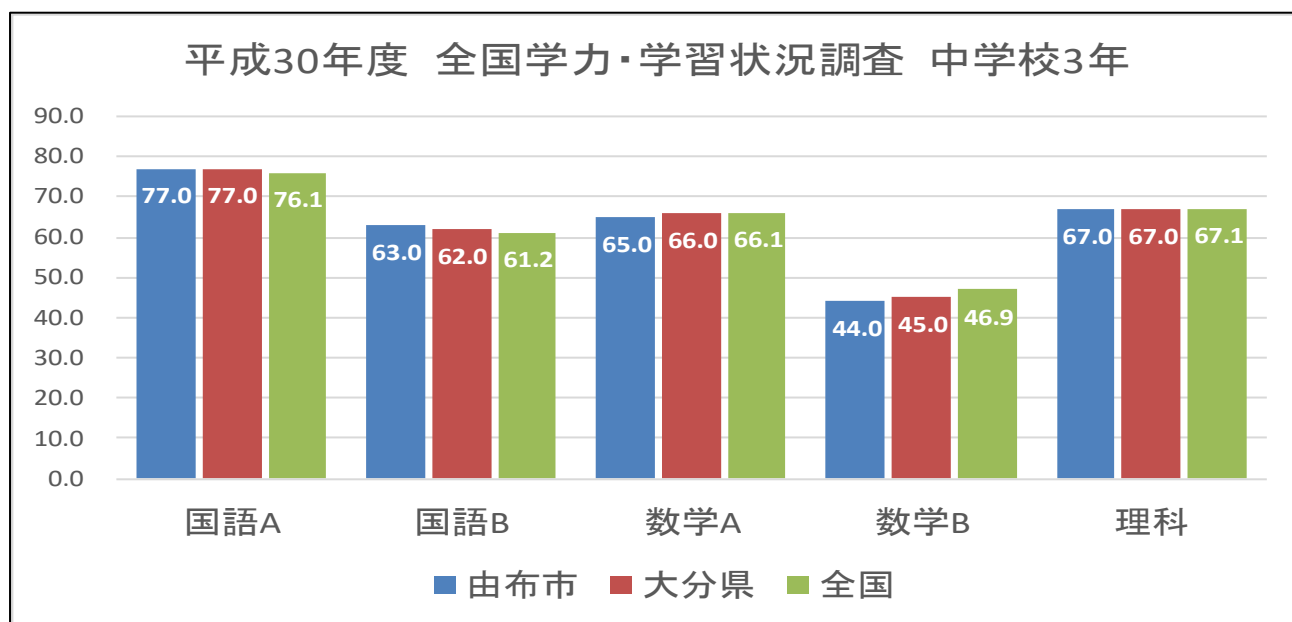


「平成30年度全国学力学習状況調査」〈図4参照〉

第3学年で、国語・数学・理科の調査が実施されました。

○国語は県や全国の値を上回り、数学・理科は若干下回りましたが、ほぼ県や全国と同様の結果でした。

〈図4〉 教科別正答率「中学校3年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「中学校における学力向上計画」

① 小学校から引き続く学力向上

小学校の部分でも記述したとおり、小学校から引き続き中学校へ学習の技能をつけていくということが今一番の課題です。

授業における話し合い活動（協働的な学習）の充実は、中学校の授業でも活用されており、子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。

小学校と同様、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、数学における計算力（スピード）をつけることは、現状では改善できていません。このことは、小学校段階で解決すべき問題であり、それによって中学校の改善が見られると考えます。今回、その点が比較的うまくいった中学校3年生が、非常によい結果をあげたことが、物語っています。

② 学力調査の結果分析をもとに授業改善を

このことも、小学校と全く同様のことが言えます。国語における登場人物の気持ちを今回の結果では、昨年度の反省をふまえかなり結果が向上しました。

中学校では、今後学力向上支援教員を増員する希望を行い、組織的に取り組めるようにしていきます。

（3）今後の課題

* 県調査および国調査から考えられる由布市共通の取組

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○ <u>学校全体で統一した取組</u>○ <u>授業改善の充実</u>○ <u>家庭学習・補充学習の丁寧さ</u> |
|--|

* 上記の3点については、継続した取組が必要になります。成果が見えられたところもいくつかありますが、さらに具体的な取組を行っていくことを考えています。

特に、小学校・中学校の連携、および、学年・教科を超えた組織的な学力向上の取組を検討中です。

昨年度からの取組で、児童生徒の授業評価を授業改善につなげていく取組を進めています。子ども自体が授業に主体的に向かうようになってきており今後いっそうの効果が期待されます。

2 意識調査結果の分析

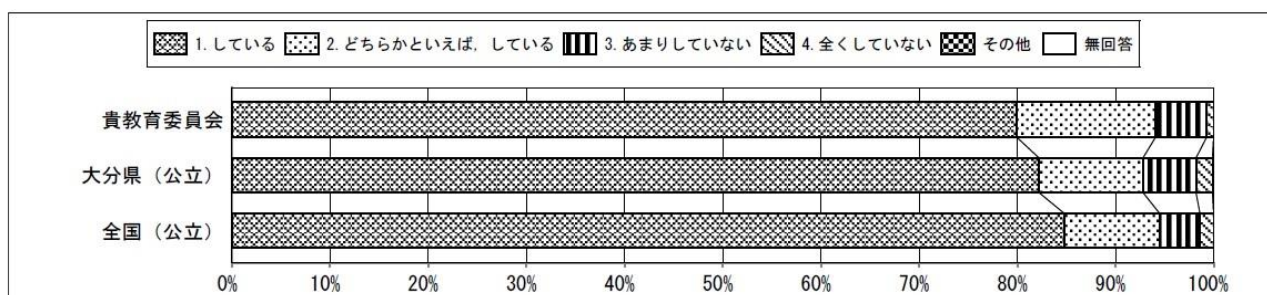
(1) 全国学力学習状況調査の児童・生徒質問紙からわかる状況

全国学力学習状況調査では、児童・生徒に様々な質問をしています。その様子からも学習習慣や生活習慣が推測されます。注目すべき点を紹介することで、保護者や地域の皆様にも知っていただき、よりよい学習習慣や生活習慣の形成に役立てたいと考えています。今年度から質問項目が変わったので取り上げる事項を若干変えて分析します。

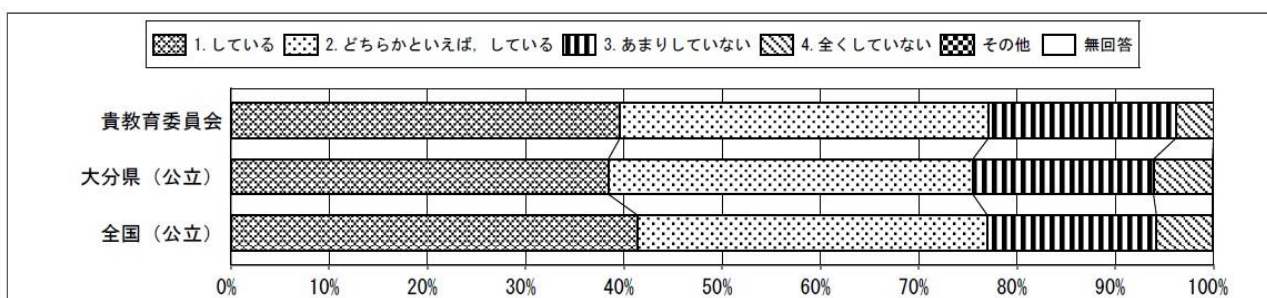
「小学校における学習習慣・生活習慣の状況」 小学校6年

① 基本的な生活習慣について

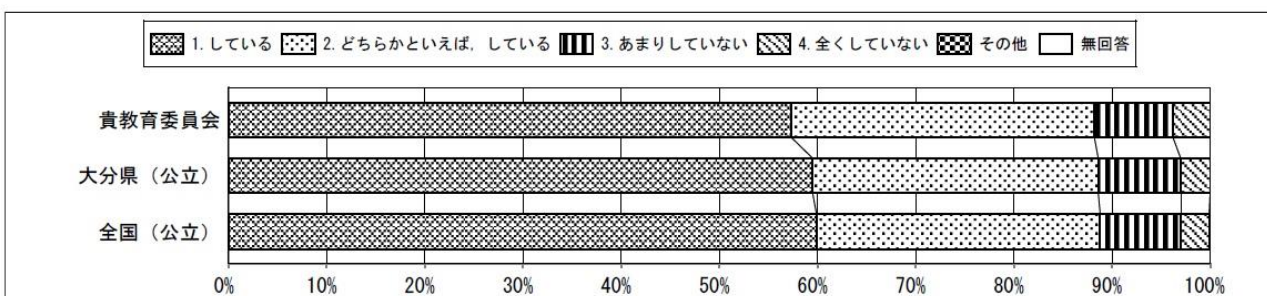
Q1 朝食を毎日食べていますか



Q2 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか



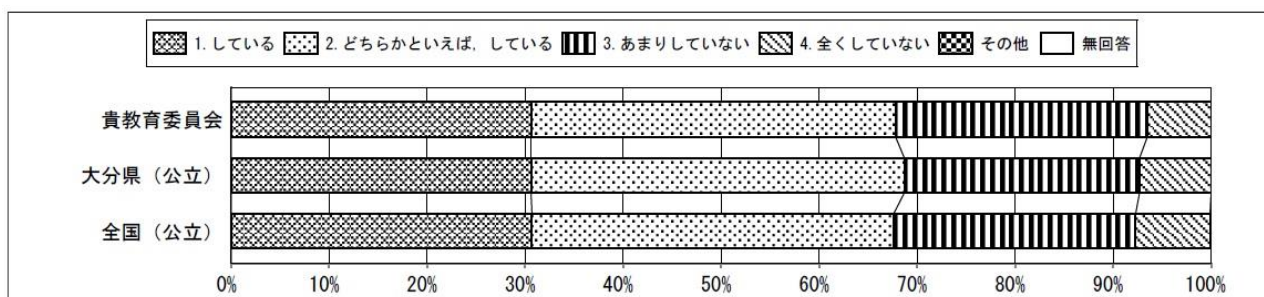
Q3 毎日同じくらいの時刻に起きていますか



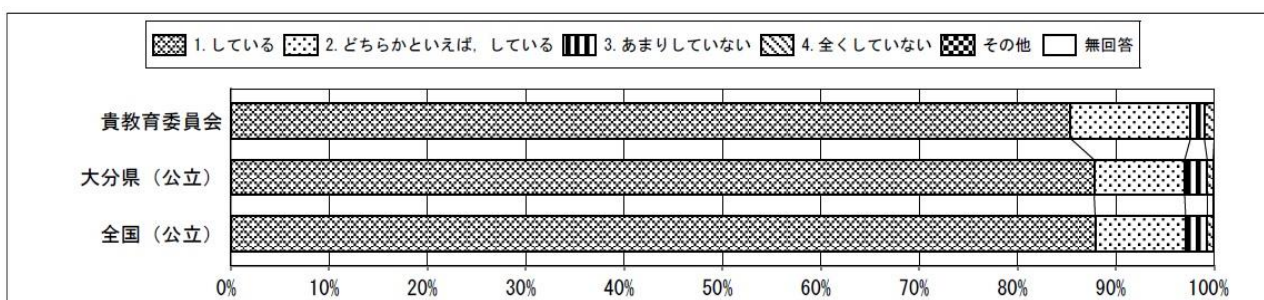
* 基本的な生活習慣は県や全国とあまり差がないようですが、すべての項目において、県や全国より割合が下がっています。このことは、学校を通じて啓発活動をしていく必要があると考えています。

② 学習習慣について

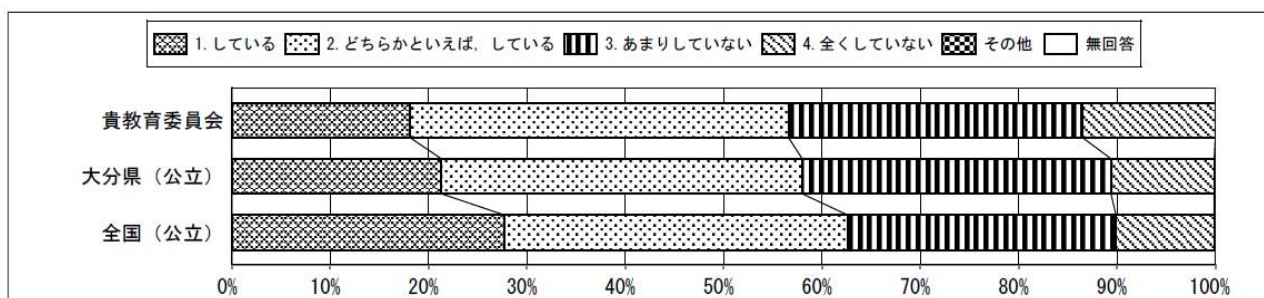
Q 4 家で計画を立てて勉強をしていますか



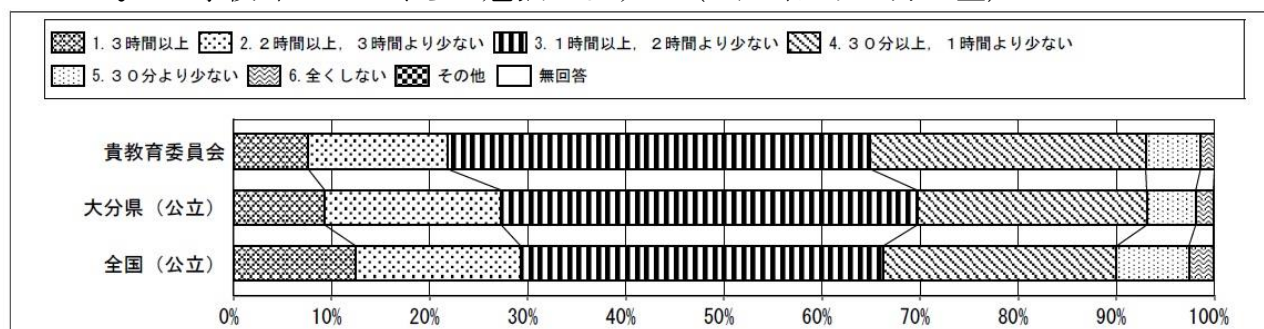
Q 5 家で学校の宿題をしていますか。



Q 6 家で学校の予習や復習をしていますか



Q 7 学校外でどのくらい勉強しますか (1日当たり 月～金)



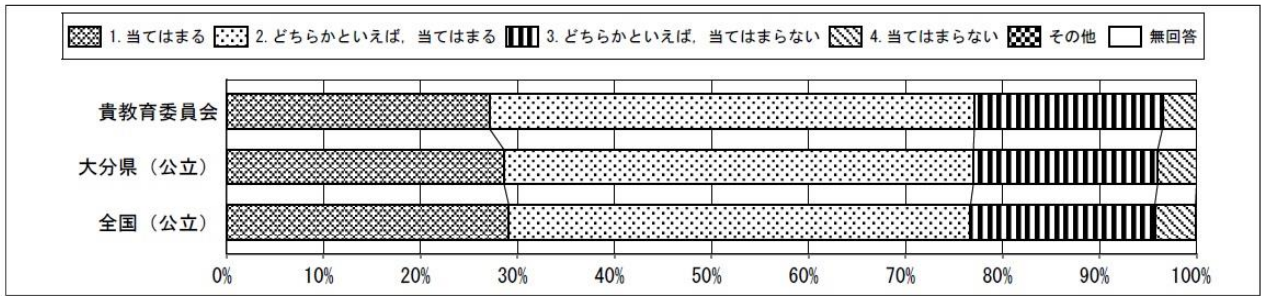
* 計画を立てて学習したり、宿題をやっている割合はあまり変わりませんが、授業の予習・復習については県や全国より低いことがわかります。

今後の改善点にあげていこうと思います。

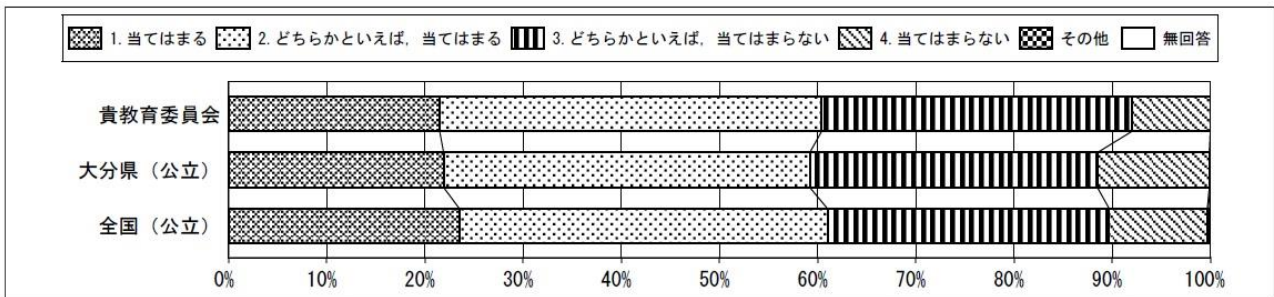
* また、2時間以上学習する児童もすくないことがわかります。ただ、30分より少ない児童も少ないです。

③ 授業改善について

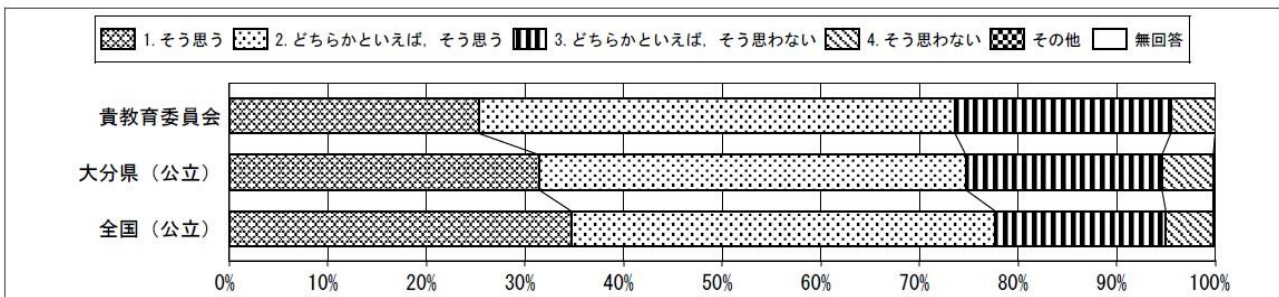
Q 8 5年生までに受けた授業の中では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



Q 9 5年生までに受けた授業で、自分の考えを公表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



Q 10 学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

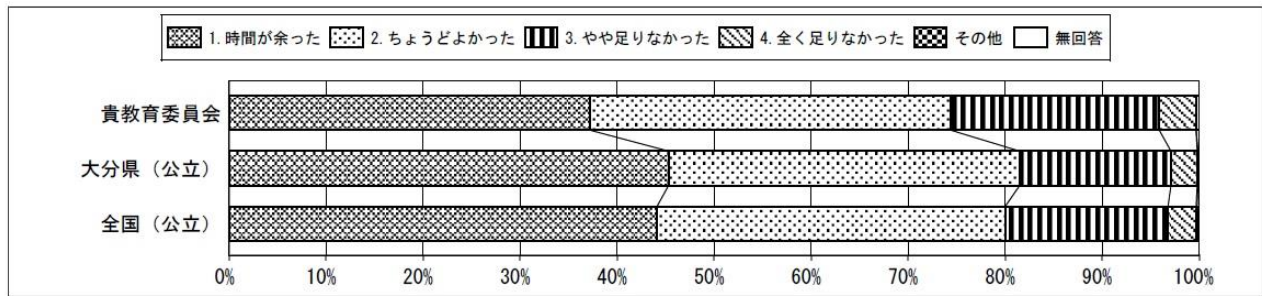


*授業改善に関しては、今年度から質問項目が変わり、課題の解決に向けて、自主性や協働性を問う質問になりました。特に話し合いの意義や効果を重要視しています。今後の授業改善の重点にしようと思います。

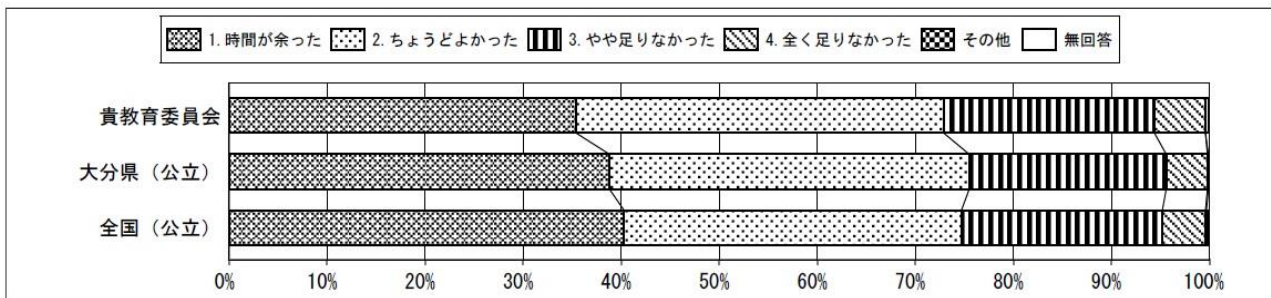
その結果特に課題となるのは、話し合いの活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることです。思考・判断・表現力をつけるには欠かせない力です。ほぼ県や全国と同じですが、そう思うとした割合が少ないことが問題です。

④ 解答時間について

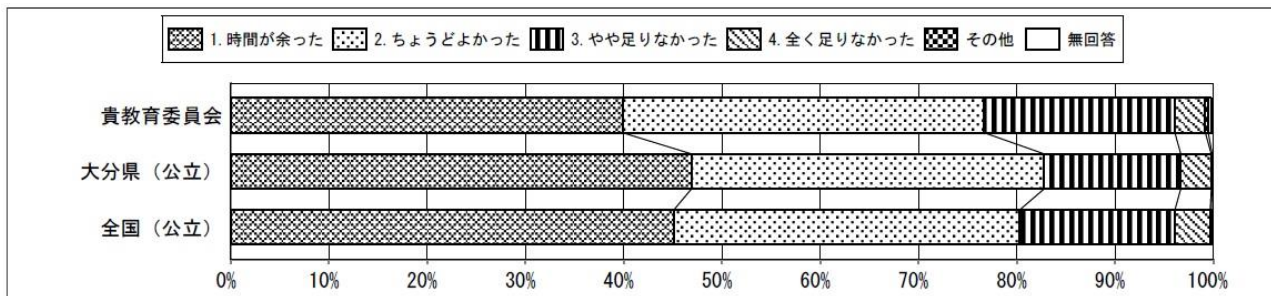
Q 1 1 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）



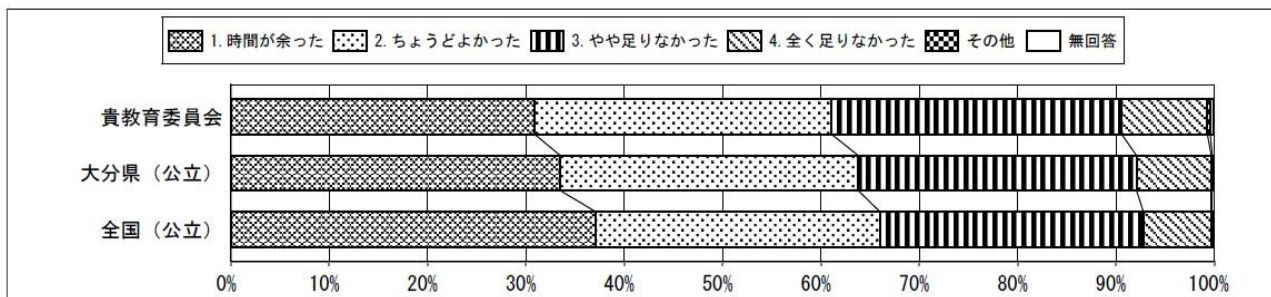
Q 1 2 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）



Q 1 3 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）



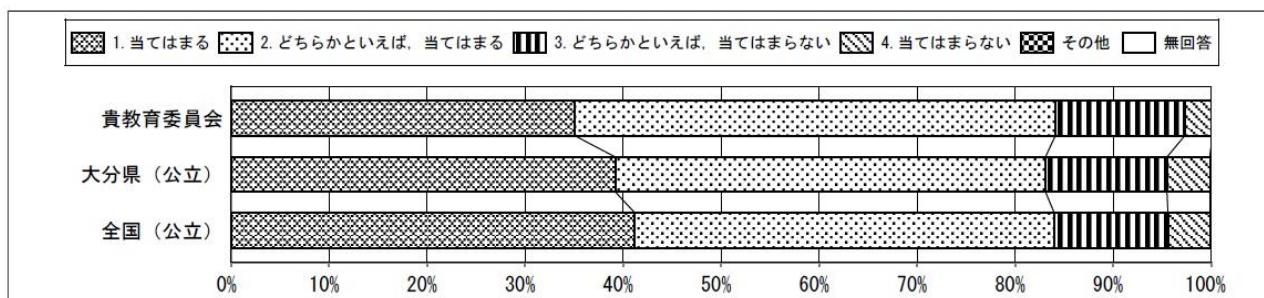
Q 1 4 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）



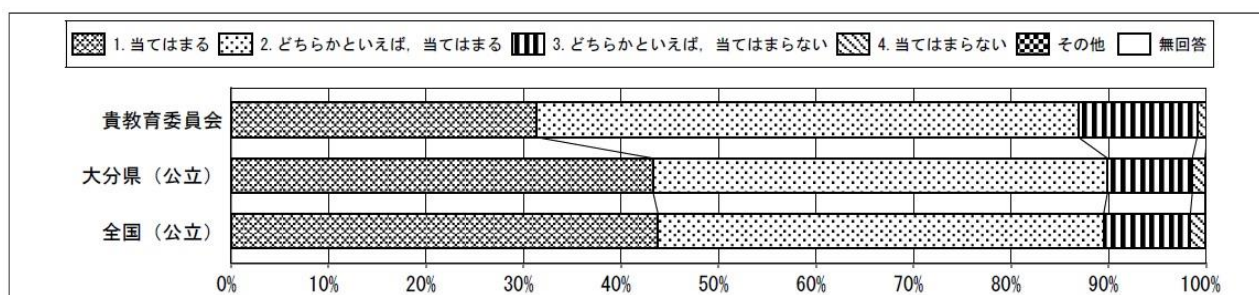
* 調査問題の解答時間については、間に合った割合が前年度より増えました。
算数Bにおいてまったく間に合わなかった児童が1割いることは問題です。

④ その他の項目について

Q 15 自分にはいいところがあると思いますか。

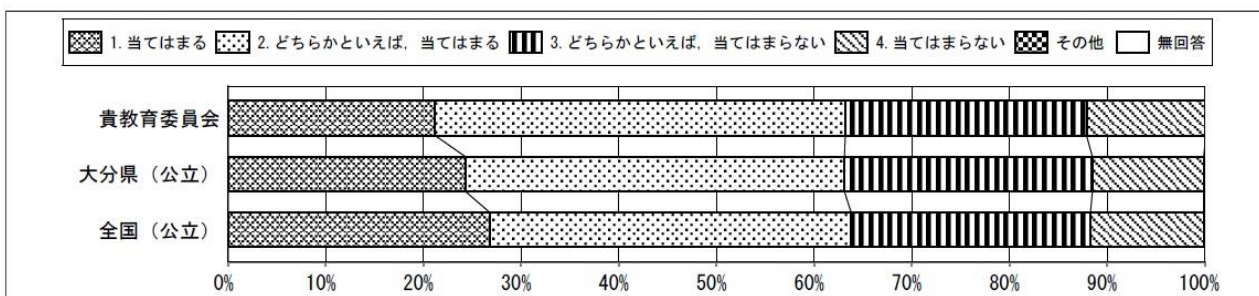


Q 16 学校のきまりを守っていますか。

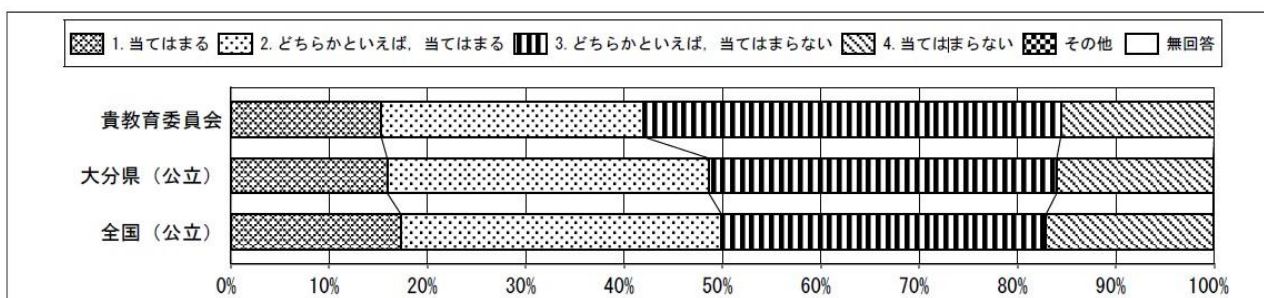


*自分にはいいところがあるの当てはまる部分、学校の決まりを守っていますかの当てはまる部分がいずれも低くなっています。学校ごとに差があるようなので、その要因をはっきりさせる必要があります。

Q 17 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。

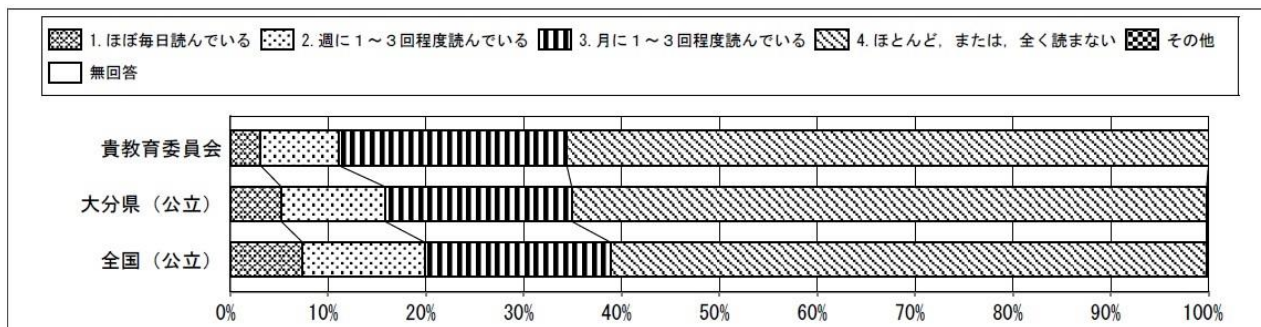


Q 18 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか

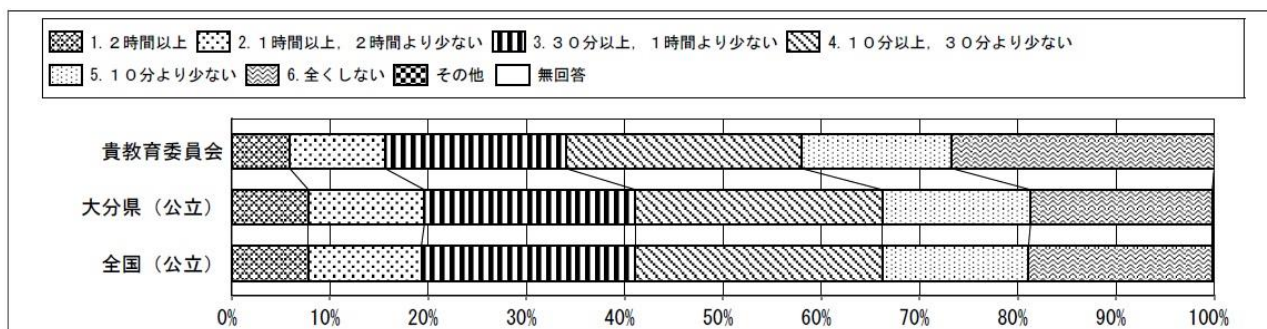


*地域の行事への参加や地域の人への関わりは高いことは、別の質問項目からわかっています。それなのに上記のような結果が出ているので関わり方を変える必要を感じています。

Q19 新聞を読んでいますか



Q20 一日当たりどのくらい読書をしますか。



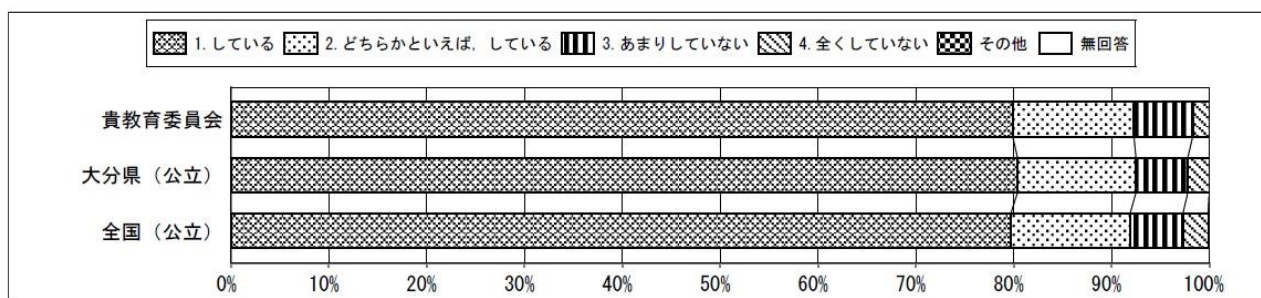
*新聞にしても、読書にしても割合が少しずつ低くなっています。

*学習指導要領が変わり、社会に参画する子どもの育成が望まれています。
 地域の関わり方で、特に課題を見つけていくことが望まれますので、新聞の活用をはじめとし、総合的な学習のあり方やコミュニティスクールの取り組み方を見直していく必要があります。

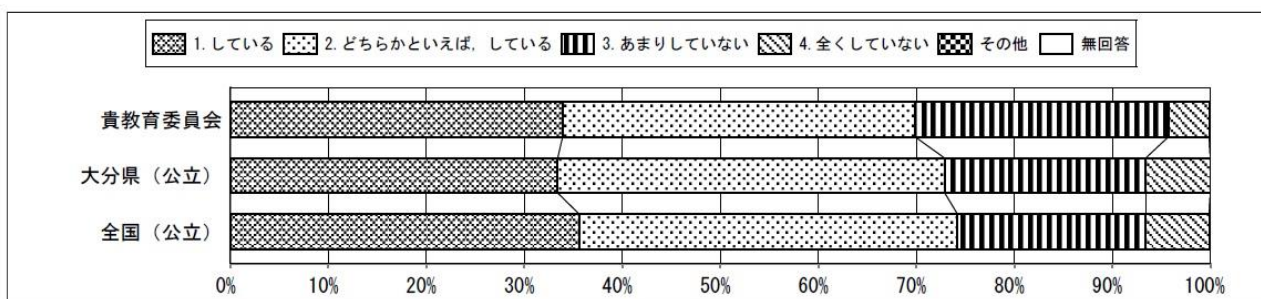
「中学校における学習習慣・生活習慣の状況」 中学校3年

① 基本的な生活習慣について

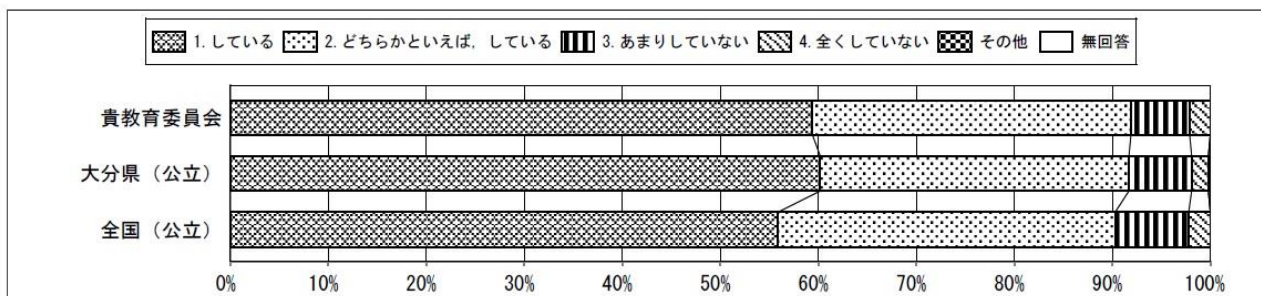
Q 1 朝食を毎日食べていますか



Q 2 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか



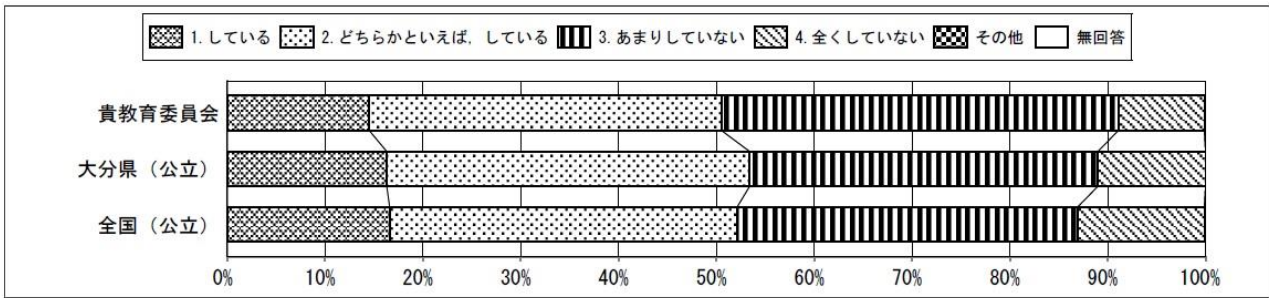
Q 3 毎日同じくらいの時刻に起きていますか



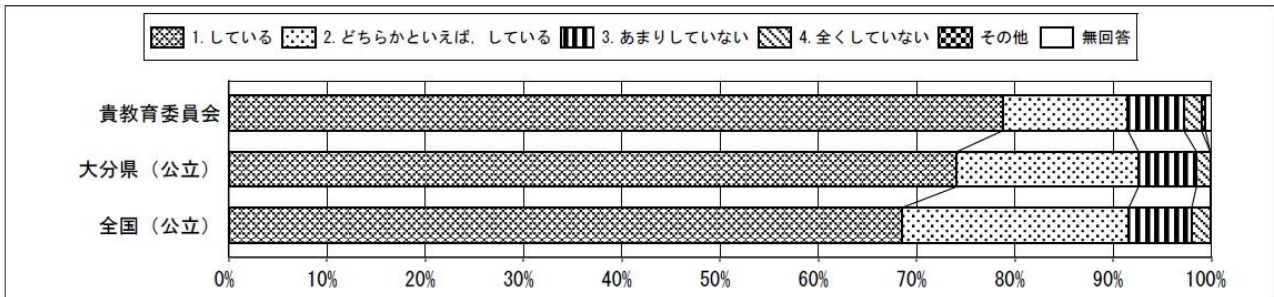
* 基本的な生活習慣は県や全国とあまり差がないようです。

② 学習習慣について

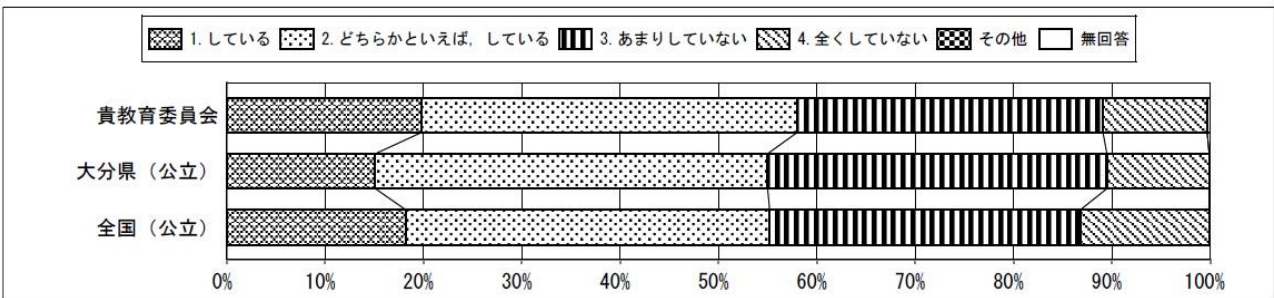
Q 4 家で計画を立てて勉強をしていますか



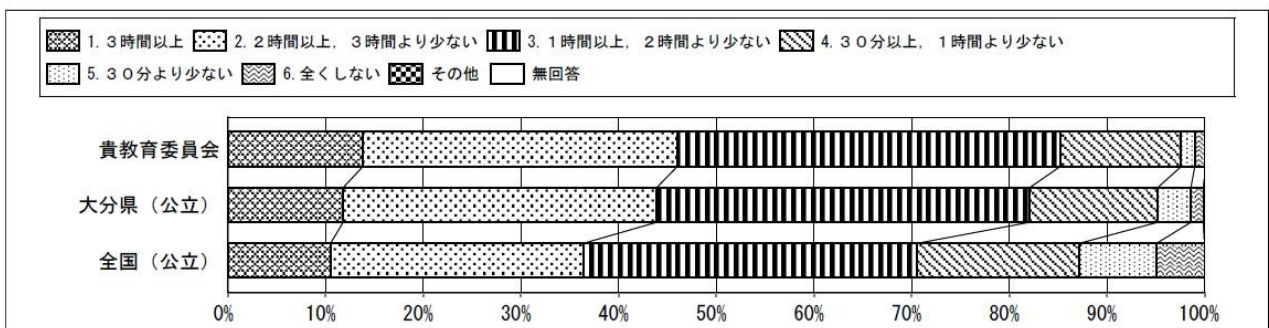
Q 5 家で学校の宿題をしていますか。



Q 6 家で学校の予習や復習をしていますか



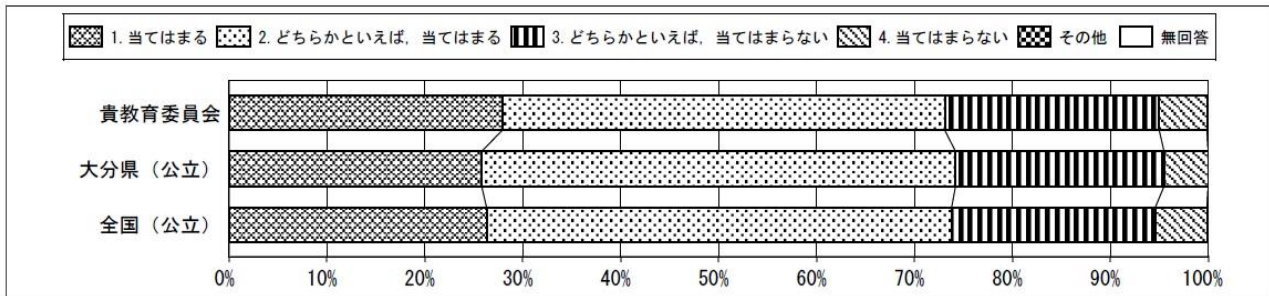
Q 7 学校外でどのくらい勉強しますか (1日当たり 月～金)



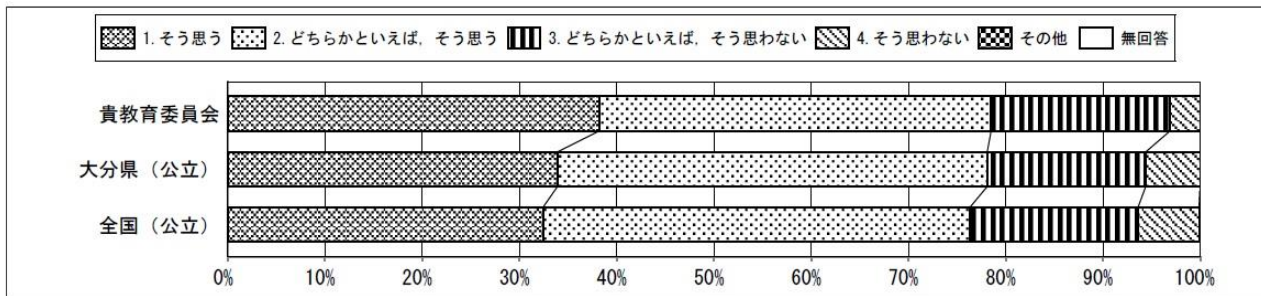
*自分で計画を立てて学習することの割合が半分程度なので、そこを増やしていくことが必要です。宿題や授業の予習・復習、また学習時間については県や全国より若干いいようです。

③ 授業改善について

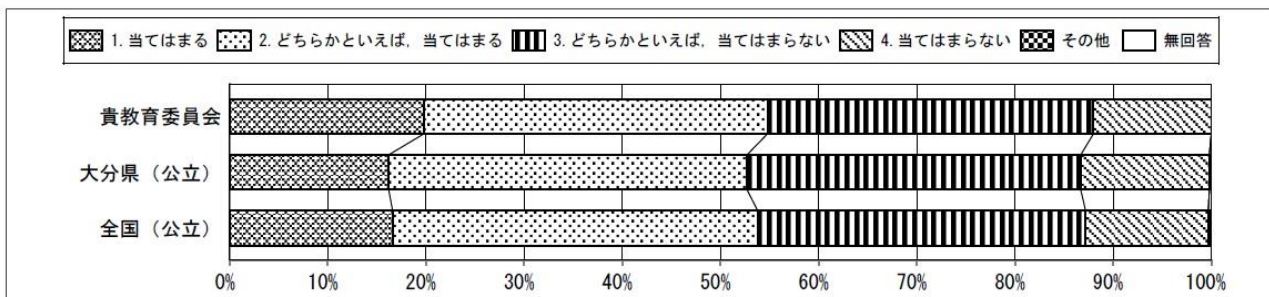
Q 8 2年生までに受けた授業の中では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



Q 9 2年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか



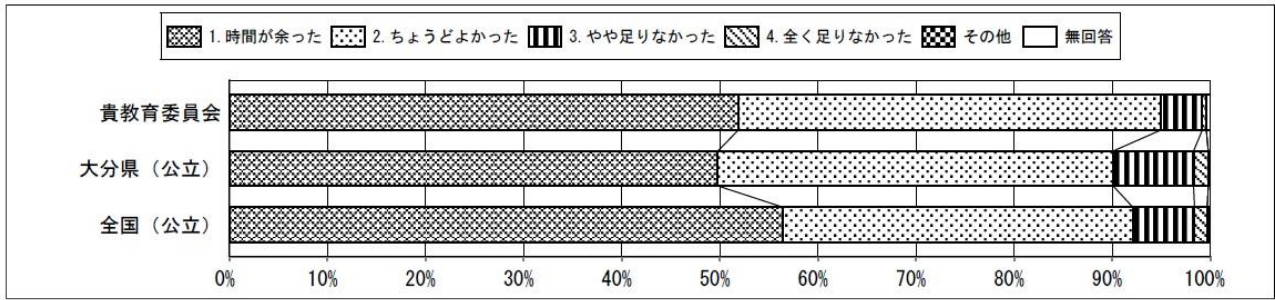
Q 10 学級の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。



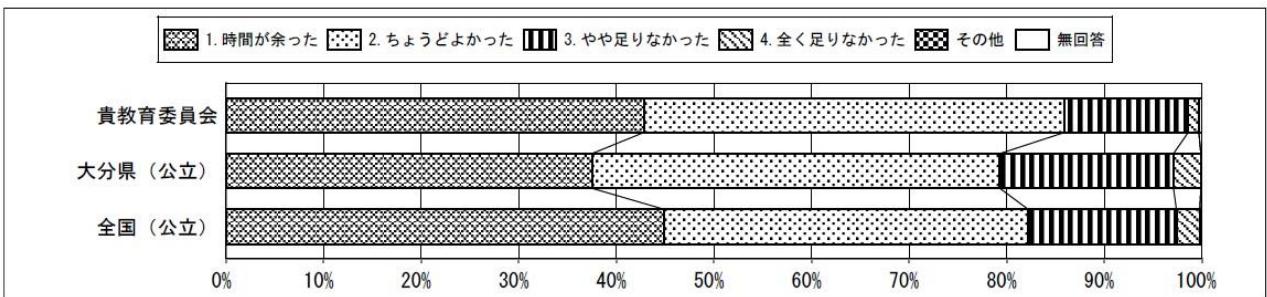
*授業改善に関しては、今年度から質問項目が変わり、課題の解決に向けて、自主性や協働性を問う質問になりました。特に話し合いの意義や効果を重要視しています。今後の授業改善の重点にしようと思います。
中学生は、話し合いの意識が比較的高くなっています。

④ 解答時間について

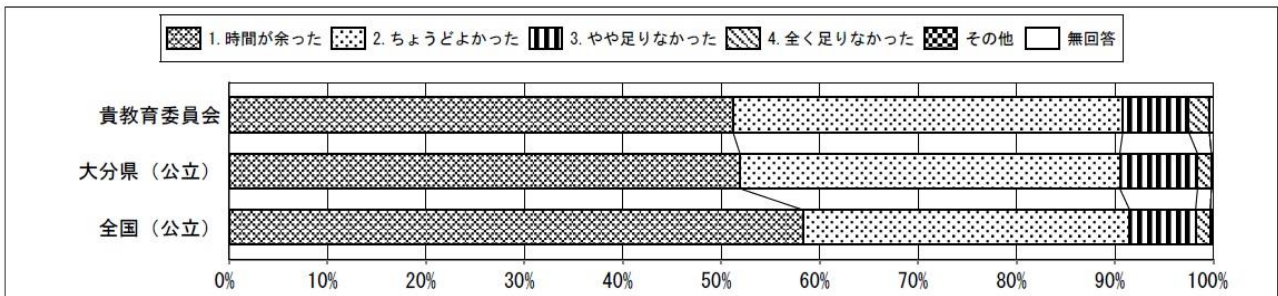
Q 1 1 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語A）



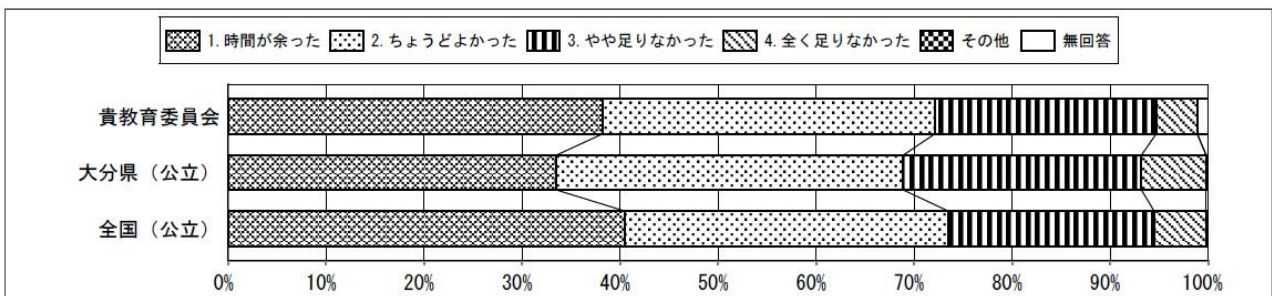
Q 1 2 調査問題の解答時間は十分でしたか（国語B）



Q 1 3 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数A）



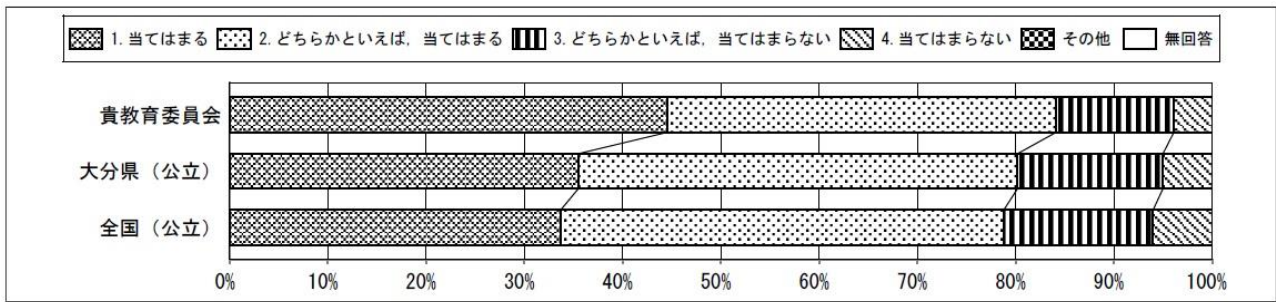
Q 1 4 調査問題の解答時間は十分でしたか（算数B）



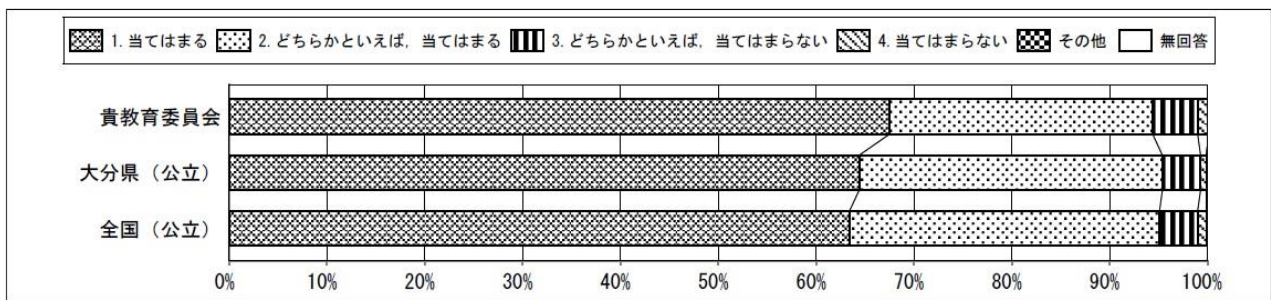
* 調査問題の解答時間については、ほぼ県や全国と同等という結果になりました。

④ その他の項目について

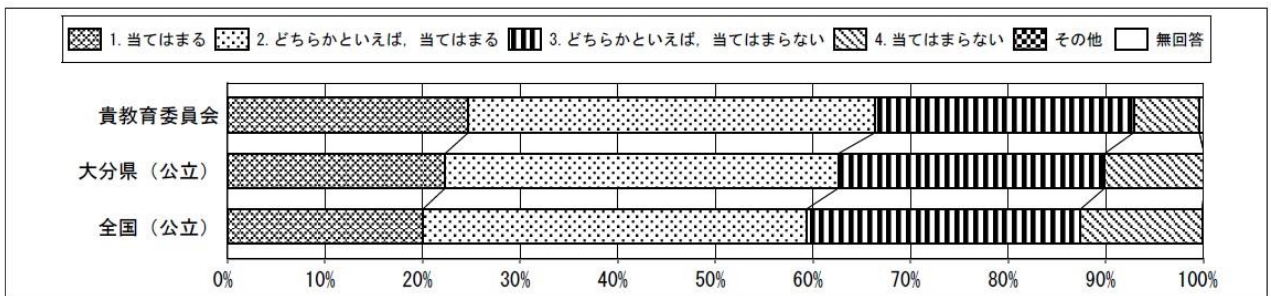
Q15 自分にはいいところがあると思いますか。



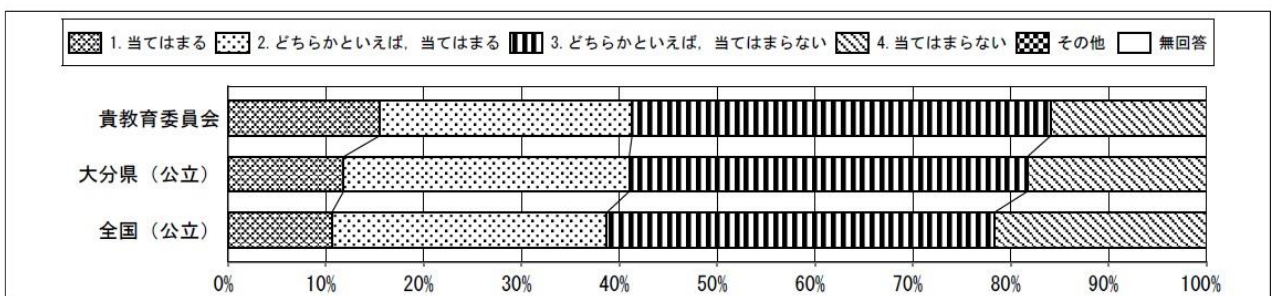
Q16 学校のきまりを守っていますか。



Q17 地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がありますか。

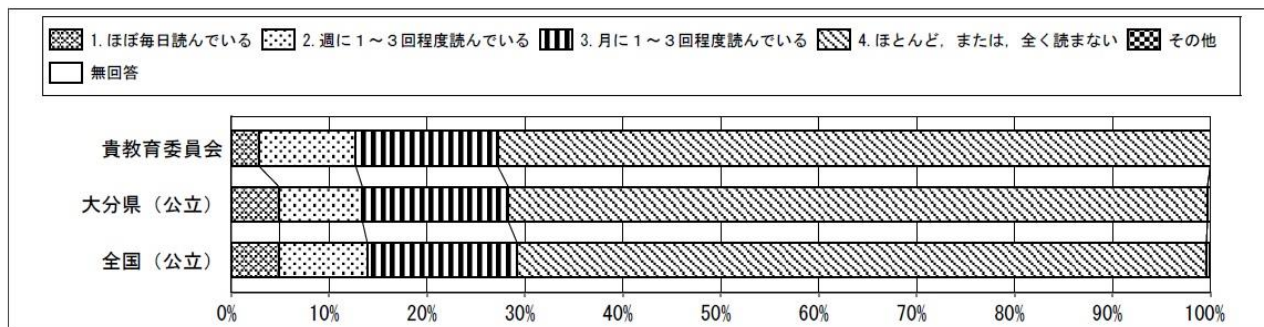


Q18 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか

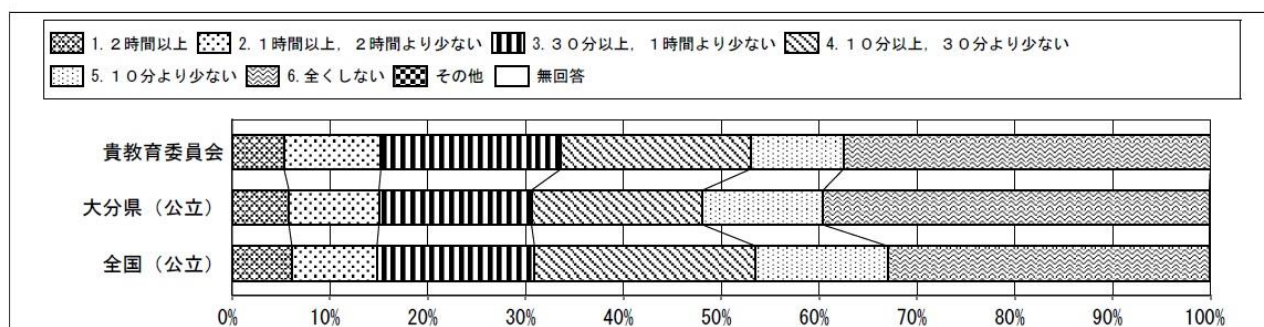


* 自己肯定感や地域への関心も比較的高いことがわかります。

Q19 新聞を読んでいますか



Q20 一日当たりどのくらい読書をしますか。



*新聞を読む子どもは全国と同じで、すごく低いことがわかります。

読書については全く読まない子どもが4割近くおられます。

これだけ考えると活字離れともいえそうですが、スマートフォン等で情報を得ている可能性もあり一概にはいえません。

*学習指導要領が変わり、社会に参画する子どもの育成が望まれています。

地域の関わり方で、特に課題を見つけていくことが望まれますので、新聞の活用をはじめとし、総合的な学習のあり方やコミュニティスクールの取り組み方を見直していく必要があります。

3 今後の「学力向上」に向けて

(1) 由布市の取組の重点に加え、定期的な補充学習を行うこと

学校を中心とした取組は、何年間かはあまり変えるつもりはありません。それというのも、市の立てた方針がまだ十分に位置付いているとは言えないからです。ただ、少しずつ成果はみられてきました。今後も学期ごとの重点化を図りながら、取組の充実に向けて精一杯努力を続けます。

実は昨年度末の由布市の独自調査では、もっと課題が多くなると予想されていました。それを3学期の補充学習でかなり改善したと考えられます。しかし言い換えれば、3学期の補充学習に頼らず、定期の補充学習を充実させる方が、効果があると考えられますので、そこを改善していこうと思います。

(2) PDCAサイクルを充実させること。

分析した結果を、改善に生かさなければ意味はありません。今年度も学校ごとに調査結果を分析していますが、その後の取組にどう生かしていくのか、市・学校が一体となってその検証を行っていこうと思います。幸い、調査結果ではよい兆しが見えてきています。今後ますます、授業が充実するよう取組をすすめてまいります。

気になるのは、年度によって傾向が大きく変わっていることです。これは、学校が組織的、継続的にいろんな取組を行っているのではなく、学年によって取組が異なっている可能性を示しています。

(3) 学校生活を充実させること。

中学校では改善、小学校では逆の結果が出ていました。学校生活、学習面のみならず生活面も充実させる必要があります。

今後、特別活動や道徳を充実させていくことで、知・徳・体バランスのとれた子ども作りにより一層取り組みます。

*今年度より、中学校では3校が共通して取り組む内容を下記のように設定し取り組み始めました。また小学校から取り組める内容については、小学校も共同歩調で取り組むことになりました。

内容の詳細はこれから決まっていますが、その骨子としては、
～生徒と授業の目標や流れを共有するために～

① 新大分スタンダードに基づく授業改善（小学校兼）

② 児童・生徒による授業評価の導入（小学校兼）

③ 組織的な家庭学習の研究（小学校兼）

～世代交代期に対応した人材育成を行うために～

④ 3中学校合同教科部会の実施

⑤ 授業のタテ持ちによる指導力の伝承

～小学校独自プロジェクト～

⑥ 低学年から確実に力をつけていくための「基礎基本系統表」に基づく学力定着

上記の内容を、推し進め学年間や学校間や教科間で極端な結果の差が出ないようにしていきます。